

【窪川】第2次世界大戦中に高岡郡四万十町下道の津賀ダム工事中に命を落とした朝鮮人労働者を慰霊する平和祈念碑が建てられ、今年で10年を迎えた。このほど同地区にある碑の前で慰霊祭が行われ、韓国の高校生や地元住民ら約60人が平和と友好を誓った。

(井上太郎)

津賀ダム慰霊碑建立10年 四万十町

同ダムは強制連行されるなどした多数の朝鮮人が作業に従事し、1944年に完成。幡多高校生ゼミナールの調査で、工事中の事故などで犠牲となった朝鮮人を葬った墓が確認された。慰霊碑は、ゼミ生と住民が2009年に建立。ゼミ生らは、ダム工事中に出たとされる石を同町昭和の山中から約300個集めて石碑に。朝鮮人労働者のものと思われる無名墓から採った土を納めている。

韓国高校生と友好誓う

同ゼミは韓国との相互訪問を続けており、今回の慰霊祭に合わせて、2日來高したのは韓国の高校生ら8人。4日の慰霊祭では碑の建立まで約20年間、無名墓を守ってきた近くの中平吉勇さん(89)が「危険を顧みず作業をして亡くなられた方々の供養を、今後も続けたい」とあいさつ。釜山の高校生4人がポップス風にアレンジした民謡「アリラン」を歌い踊って、朝鮮人労働者のみ霊にささげた。

日韓関係が悪化する中で、来日となったが、高校生の孔昭現

日韓関係悪化中来高「意義ある行事」

さん(16)は「両親は少し心配していたが、自分は一切迷いはなかった。日本と韓国の歴史を知る上で意義のある行事に参加できて感動した」と話した。

韓国の一行は3日、父親が津賀ダム工事に動員されたため朝



慰霊碑の前で「アリラン」を歌いながら踊る韓国の高校生(四万十町下道)

鮮半島から移住させられた同町在住の李洋一(日本名・鈴木洋一)さん(82)から当時の体験を聞いた。鳥の巣箱やベンチを作る木工体験でも親交を深めた。

また、10年前の大学時代に慰霊碑建立に関わった趙娥(チョハ)さん(30)も、通信社「ニュース1」の記者として同行取材。日本で亡くなった朝鮮人を手厚く慰霊している人たちがいることは、韓国でほとんど知られていない。

(日韓関係が悪化した)この状況だからこそ伝えたい」と話した。